



羅針盤 R8 (2026) - No.1



家族・健康！ チャレンジする子！ 社会の架け橋に！

学校は失敗するところ！ 教室は間違えるところ！ 授業は子供が主人公！
誰一人取り残さない！ 子供の成長を教育活動の、ど真ん中におく！
One for all. All for one. One team. チーム玉川小

令和8年4月1日(水)
昭島市立玉川小学校
校長 小瀬 和彦

さあ！令和8年度のスタートです！ よろしくお祈りします。

One for all. All for one. チーム玉小で前進して参りましょう！

東京都内の小学校は約 1,300 校あり、教職員は約 35,000 人、児童は約 600,000 人もいます。その中で、玉川小で、私たちが出会えたことは、奇跡であり、ひとつの縁ではないでしょうか。ぜひ、この出会いを、縁を大切にしてください。そして、「一期一会」を大切にしていきたいと思います。

I 家族・健康を第一優先で！～明るく、爽やかな風になってください～

何と言っても、家族を・健康を第一優先にしてください。教職員の皆さん及びご家族の心と身体の健康が第一です。

子供たちは、教職員の皆さんの背中を見て育ちます。背中というのは怖いもので、そのときの気分・感情・思いなどの精神状況が意識的にせよ、無意識的にせよ如実に、あらわれてしまいます。子供たちは、その状況を瞬時に察知し、影響を受けます。

教職員の皆さんには、子供たちにとって「明るく、爽やかな風」であってほしいと思います。

II 「チャレンジする子の育成（ビジョン）」4点のミッション 「子供の成長を教育活動のど真ん中におく！」パッション

自らのよさや可能性を発見し、伸ばすためには、多様なことにチャレンジする必要があります。しかし、子どもたちは失敗や間違いを恐れ、チャレンジしようとは、なかなかしません。「自ら進んでチャレンジできる子」（ビジョン）を育成していきましょう。

そのために、①「学校は失敗するところ」、②「教室は間違えるところ」、③「授業は子供が主人公」、④「誰一人取り残さない」をキャッチフレーズにして意識化を図り、何事にもチャレンジできる児童に育てていきましょう。

教育活動を新しく新たに展開するとき、迷いが生じたら、「子供の成長にとってどうなのか？」考え・判断してください。「子供の成長にとってプラスなのか？マイナスなのか？」この問いが、全ての教育活動に対する判断の基本です。＝言い換えるなら、「子供の成長を科教育活動のど真ん中におく！」

III 社会の架け橋になる！

現在、子供たちを取り巻く状況は、SNS を巡ってはアテンションエコノミー（情報の質ではなく、人々の興味・関心に経済的価値をおく）、フィルターバブル（インターネット上で自分の興味や好みに合った情報ばかりが表示される現象）やフェイクニュースに溢れている反面、読書離れや新聞やテレビのニュースなどとの関わりが減り、社会の動きへの関心が希薄化しています。

「これからの社会の創造を担っていく子供たち」のために、先生方には、朝夕の会で、社会の出来事について記事やニュースを取り上げたり、そのことについてコメントしたりするなどして社会の出来事に関心をもてるよう「社会との懸け橋」になってください。